

歴史民俗資料館だより

令和7年11月号 霜月 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

企画展「くらしの中の竹」 11月22日(土)から

2025
11.22(土)
↓
2026
4.12(日)

企画展 くらしの中の竹

【入館料】
一般・大学生240円(1100円)
高校生180円(140円)
中学生120円(100円)
小学生80円(60円)
※12歳以下は保護者同伴
※小学生以下は入館料半額
※小学生以下は入館料半額
※小学生以下は入館料半額
※小学生以下は入館料半額

【観覧時間】
午前9時～午後4時45分
(入館は午後4時15分まで)

【休館日】
毎週月曜日(例年12月31日を除く、休日の翌日)
毎月第4水曜日(12月を除く)
年末年始(12月28日～1月3日)

公益財団法人 仙台市歴史民俗資料館
仙台市歴史民俗資料館
Sendai City Museum of History and Folklore

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7 電話022-295-3956
FAX022-257-6401
E-mail: info@sendai-museum.jp
http://www.sendai-museum.jp/

竹は多くの利点をもつ身近な自然素材であることから、農作業の道具や収穫物などを入れて運搬したり盛り付けたりする籠や箆、魚を捕まえるドウや魚介類の行商で用いられたボテザル、正月の門松や七夕の竹飾りなど年中行事の飾り、遊び道具である竹とんぼや水鉄砲など、人々の生活のさまざまな面で活用されてきました。

本展では、人々のくらしの中で竹がどのように活用されてきたのかを、高度経済成長期から現在にかけての変化にも触れつつ、仙台地方の例を中心に紹介します。

■展示解説

11月22日(土)

①11時から ②14時から

※予約は不要です。ただし、入館料が必要です。

子供たちからお手紙をいただきました。(太白区A小学校) 素敵なお手紙ありがとうございます。

○行灯体験や石臼体験をありがとうございました。昔の物を見ると「こんな物で生活していたんだな。」と思いました。昔の洗濯機は自動ではなく、自分でよごれを落とすので大変だったと思います。また、歴史民俗資料館さんに行って昔の物を見に行きたいです。

○おいそがしい中、いろいろな体験をさせてくれたりいろんな物をみせてもらったりして、とても楽しかったです。校外学習の前日ずっとわくわくしていました。あんどん体験で実際の明かりなどいろいろなことを教えていただきました。石うす体験では実際に石うすで大豆をつぶすことなどを教えていただきありがとうございました。

暮らしのかたち 「洗う」

洗濯は、木桶の洗濯桶に水を入れ、予め水につけておいた衣類に、固形石けんをつけてぎざぎざのある洗濯板の上でこすり、手でもみ洗いをした。通常は朝か午前中の仕事であるが、農家では農作業の終わった夜に洗濯をしたところもある。月明かりの下で、手探りで洗うこともあった。赤ん坊の汚れたおしめは、そのまま田に持っていき、昼の休みに川で洗って草っ原に干しておけば、夕方家に帰る頃には乾いていた。

農作業の泥汚れは、川で洗って落とした。石けんの代わりにぬるま湯につけておいたサイカチの実を、揉み出して使ったところもある。サイカチの実は汚れがよく落ちて、白くなるのは良いのだが、すすぎを十分にしなければならぬので面倒だったようだ。

古くなった衣類の洗い張りも、貴重な布の再活用の方法として欠かせなかった。家族全員の衣類の洗濯は大変辛い仕事だったようで、後の家庭用電化製品の普及で一番便利で助かったのは電気洗濯機だったという。

(参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」)



サイカチの実

莢（さや）にサポニンを多く含むため、油汚れを落とすための石けんの代わりに、古くから洗剤や入浴に重宝された。莢を水につけて手で揉むと、ぬめりと泡が出るので、かつてはこれを石けんの代わりに利用した。



洗濯板とたらい

洗濯板は以外に新しく、明治時代に外国から日本に持ち込まれました。発明されたのは、ヨーロッパや中国と言われています。

日本で広く使われるようになったのは、大正時代からです。たらいに水をはり、板ののこぎり状になっているところに押しつけます。汚れを板に何回か押し付けることで、摩擦と振動と圧力で汚れが剥がれていきます。この仕組みは、後の洗濯機にも用いられます。